

立命館 言語文化研究

20巻2号

目次

特集

国際シンポジウム

イタリア観の—世紀—旅と知と美—

はじめに…………… 中川成美, Silvio VITA (3)

1. イタリア・イメージの形成と交差

『米欧回覧実記』における明治時代のイタリア描写

—その語彙と表現—…………… Paolo CALVETTI (5)

駐伊公使時代の田中不二麿と訪伊日本人たち

—明治中期における日本人政治家のイタリア〈観光〉—…………… 鈴木栄樹 (13)

航路なき旅

—伊太利亜王国海軍の艦隊と明治初期日本人の伊太利亜観—…………… Silvana DE MAIO (33)

『即興詩人』とイタリア

—森鷗外とアンデルセン—…………… 長島要一 (43)

コメント「日本人のイタリア観の変遷」…………… 岩倉具忠 (51)

2. イタリアをまなざす旅と美意識

文学者の表現

—日本人旅行者の見たイタリア—…………… 真銅正宏 (53)

徳富蘆花のイタリア旅行

—プリンディシからコモ湖畔へ、そして戦争と平和—…………… 岩倉翔子 (67)

洋画家のイタリア, 日本画家のイタリア…………… 高階絵里加 (79)

明治の美術界におけるイタリア

—画家松岡壽と建築家辰野金吾の場合—…………… 河上真理 (85)

日本におけるイタリア観の形成

—『米欧回覧実記』に見るイタリアのイメージを中心に—…………… 加藤磨珠枝 (101)

3. イタリアとの知的遭遇

新村出とイタリア…………… 岩倉具忠 (115)

姉崎とイタリア…………… Susanna FESSLER (123)

西本願寺の教状視察とイタリア訪問の足跡

—島地黙雷の『航西日策』を中心に—…………… Silvio VITA (129)

方法としての旅…………… 西川長夫 (137)

4. 和辻哲郎のイタリア観

和辻哲郎と南イタリア…………… 竹山博英 (139)

イタリア古寺巡礼

—美と思想の遍歴—…………… Oliviero FRATTOLILLO (147)

〔コメント〕和辻哲郎『イタリア古寺巡礼』…………… 浅野 洋 (155)

5. イタリア戦後史としての須賀敦子

須賀敦子の浸蝕する記憶

—イタリアを書くこと・訳すこと— …………… 和田忠彦 (159)

文学空間としてのイタリア

—須賀敦子の世界—…………… Giorgio AMITRANO (169)

須賀敦子の霧と光

—見ることと書くことと— …………… 中川成美 (173)

コメント…………… 西 成彦 (181)

ラウンド・テーブル

—シンポジウム概括—…………… 芳賀 徹 (基調スピーチ) / 岩倉具忠, (185)

Susanna FESSLER, 和田忠彦, Paolo CALVETTI

08年度プロジェクトB4 研究報告 (2)

戦後の農民運動と農村の変容

はじめに…………… 西川長夫 (197)

松下清雄蔵書目録 (1)…………… 岩間優希, 原 佑介 (作製) (199)

松下清雄年譜 (2) 遺稿…………… 松下忠夫 (217)

松下清雄 (渡辺武夫) 関連記事目録…………… 伊藤淳史 (221)

短編小説「少年の冬」(前編)…………… 松下清雄 (260)

(1)

個別論文

音読を見直す

—「つぶやき読み」の事例をもとに— …………… 澁谷きみ子 (261)

P. ツェラン：連想と暗示と諷諭

—「氷, エデン」, 「HAUT MAL」—…………… 野口崇子 (273)